

3年学年だより

令和6年12月20日(金)

No.24

吹田市立千里丘中学校

第3学年

三者面談、進んでいます。

今週月曜日から始まった三者面談。どのクラスでも、2学期末の成績とそれぞれの置かれている状況、3学期に向けて頑張してほしいことを伝えています。進路の選択肢が広がって「よし!」という人がいる一方で、現実を目の当たりにして、愕然とする人もいますね。先生たちは、みんなの頑張りを保護者の方に伝え、一緒に進路について考えることを目的として、懇談しています。しかし、中には「懇談は、怒られる場」という認識の人もいます。この時期になっても、「提出物、出してませんでしたよ」と指摘される人。残念の極みです。



「期限」、守れていますか。

学校では、さまざまなものに「期限」が設けられていますよね。教科の提出物はもちろん、道徳で使ったワークシート、ピアノ伴奏者の立候補期限、保護者の方に書いていただく大切な書類、授業開始のチャイム…3年生全体を見て、「期限」についての認識が非常に甘い人が多いのを感じています。これも、残念の極みです。

「期限を守ること」の本質とは…

「期限」はなぜ守らなければならないのでしょうか。

「怒られるから」? 違いますよね。「怒られなければ遅れてもよい」という考え=期限を守る本当の意味が分かっていません。「守らないとトラブルになる(秩序が守れない)から」? これも少し違います。「トラブルにならない程度なら大丈夫」という思考につながってしまうからです。では、どんな理由が…? もちろんいろいろな考え方がありますが、今の3年生に考えてもらいたい内容を、いくつか紹介します。



① 人を不快にさせるから

時間や期限が守られず、待たされて不快に感じない人はいませんよね。荷物の配達員が時間にルーズなことが原因で、注文したものが予定通りに届かない。「用事で家を出るまでに受け取りなかったのに! 予定の電車で遅れるやん。」こんな経験、ありませんか。買い物のレジの行列が無駄に長くなり、待ち時間が発生したときにも同じ気持ちになります。「私の時間、返してよ!」

相手をこの状態に陥らせるだけで、その人のパフォーマンスは格段に下がります。当然、モチベーションが下がりますし、ミスやその後の作業にかかる時間も圧倒的に増えます。誰にとっても、いいことは一つありませんね。



② 時間を戻すことはできないから

あるサラリーマンに、『A.期限を守るが、出来の悪いレポートを出す人』と、『B.非常に出来の良いレポートを書けるが、期限に毎回遅れる人』、どちらが信用できるかと聞いたところ、「絶対にAだ」と答えました。理由は、「出来の悪さは、他人がフォローすれば補える。期限を守って出してくれさえすれば、いくらでも修正できる。けれど、過ぎてしまった時間だけは取り戻せないから。」とのことでした。なるほど、Time is ALL! の理論ですね。

たとえば、10人集まる会議に1人が5分遅れた場合。その5分を待って会議を始めたら、**損失した時間は5分ではなく、9人×5分の45分**です。遅れた人の「まあ、これくらい大丈夫か」の行動が、あらゆるところに悪影響を与えているのです。何かの組織に所属している限り、こんな独りよがりでは決していい結果は出ません。

③ 自分以外の誰かのパフォーマンスを下げるから → あなたのアウトプットは、誰かのインプット

1つの行動は、別の誰かの仕事につながっています。たとえば、会社での月末の経費精算。あなたが、仕事のために使ったお金(経費)を調べ、会計システムに入力する作業をします。入力すると、
→ 上司が確認して承認
→ 経理担当が再確認
→ 労務担当が、勤務の状況(その日出勤していたか?何時まで働いていた?)を照合
→ 給与担当が、給与計算をし、給与の振り込み額に経費を追加し、銀行へ手続き書類を送る
→ 銀行担当が…と、さまざまな人の仕事につながっていきます。



もしあなたが、データの入力を期限より半日遅らせると、その後の行程を請け負う上司・経理担当・労務担当・給与担当…の予定が軒並みずれ込みます。これがもし工場であれば、生産ラインが止まり、大損害が発生します。

「半日程度で何を大げさな…」と思われるかもしれませんが、**誰かのインプットは、その前の誰かのアウトプットがなければスタートしない**ということをお忘れなく。上司は、経費の入力締め切り直後に、他の仕事のすき間をぬって承認作業を済ませようとしていたかもしれません。あなた1人が遅れるだけで、その作業ができなくなるわけです。上司の承認作業ができなければ、経理担当が確認できず、労務担当の仕事も進みません。

さらに、半日であれ一日であれ、期限に遅れた人がいると、「それが次にいつ提出されるのか、確認する」「忘れていそうなら、催促する」「関係する仕事をしている人と日程を再調整する」という作業が、もれなく発生します。これは、**全員が期限を守っていれば、しなくてもよかった余計な(無駄な)作業**なのです。

そしてもう一つ、重要なポイントがあります。

複数の人がかかわるプロジェクトの場合、期限を守った大多数の人の作業は、予定通りに進めなくてはなりません。当然、提出が遅れたあなたの分の情報は、その集団に乗り遅れることになり、あとから追いかけて情報が通過することになります。作業する人にとっては、**二度手間が発生する**ということです。仕事量が増え、二度手間が発生すれば、さらにミスが発生しやすくなります。上司や経理担当者も人間ですから、集中して作業に取り組まなければミスが起きやすいのは当然です。**一気に一覽でチェックすれば済んだものを、1人分だけ個別にチェックする**わけですから、データもバラバラに散らかって、管理が煩雑になります。紙でデータのやり取りをしていた場合は、遅れた人の分だけ紙がどこかに行ってしまう危険まであるのです。

みんなのリアルに当てはめると…

進路希望調査の提出日を忘れ、担任の先生や必死で間に合うように提出した人を**不快にさせる**。その提出を待って作業をする担任の先生の**貴重な時間を奪い**、催促するという**余計な仕事を増やす**。その書類を見て次の作業をする副担任→進路指導の先生→他学年の進路担当の先生→他中の集計の先生→…の**大切な時間まで奪い**、**仕事を増やした上にパフォーマンスを劇的に落として**、**ミスを誘う**…



ここまでくると「自分の問題やろ、ええやん別に」という言い草は通用しません。単純に、「先生たちを困らせるなよ」という話でもありません。自分のタスクだけで物事を考えるのではなく、広い視野で物事をとらえることが大切です。自分の行動が、他者にどのような影響を与えるか、想像力をもって取り組む必要があるということです。

みんなは、春には中学校を卒業し、義務教育を修了して社会に出ます。そのときになってはじめて困るのではなく、今から訓練してほしいのです。
期限を守らないことを、軽く考える大人になってほしくないのです。
自分以外の人の動きまで想像して行動できる、信頼できる大人になってほしいのです。